

うえなえ

デイケア見学

柳町デイケアは、来年の新病院での新たなスタートに向けて、三家クリニックデイケアとありまこうげん診療所デイケアに見学に行きました。ここに報告をしてもらいます。

Vol.424 2023.9

柳町診療所デイケアは、開設当初、退院後の社会復帰の場として、居場所的役割を中心に担っていた。昨今、そのデイケアの役割が見直されるようになり、リハビリテーション機能を明確にした目標達成型（通過型）のデイケアに変化しつつある。当デイケアでも時代に則したデイケアを目指して準備を始めており、今回、参考としたい2カ所のデイケアの見学を行った。

●三家クリニックデイケア（大阪府寝屋川市）

以前は居場所型で運営されていたが数年前に役割を見直し、「入口（入所者への対応）」と「出口（卒業者への対応）」のプログラムの設置をし通過型に移行した経過がある。登録者数は約300名で、当院デイケアの3倍ほどの利用者が在籍している。目的別に利用者をグループ分けし、目的に合わせたプログラムを同時進行で実施している。外来診療ではデイケア以外にも訪問看護や医療福祉相談室などの他部署が連携しており、医師とコメディカルスタッフ、コメディカルスタッフ同士が常時連携をとり合うことで、関わるスタッフ全員で患者を支えていくという仕組みであった。入口で複数のスタッフが根気よくデイケアへの導入を行い、デイケアの次の目標を可視化させたプログラムで日常的に出口を見せていく仕掛けを作っていた。

●ありまこうげん診療所デイケア（兵庫県尼崎市）

人口45万人尼崎市に入院施設のある精神科はなく、精神科デイケアは市内にこの診療所を含めて2カ所である。こちらのデイケアは小規模で1日の利用者数は平均10名程度、平均33歳、専属スタッフはOT1名のみであり、柳町デイケアとは人

数や対象者は大きく異なった。しかしこちらも通過型デイケアとして利用経過目安を設け、利用者の卒業への道筋を明確にしている点や、一人ひとりの利用者とかかわる時間を確保するためにプログラムの構造や、環境設定を工夫している点が参考になった。

今後デイケアは利用者が「社会で生活をするための力を身に付ける場」、入院で取り組んできたことを地域生活で途絶えないよう「入院と連続したリハビリテーションを行う場」として機能していきたい。今回の見学を経て、その実現に向けての思いは一層強くなった。具体的な取り組みとして、以下の4点を挙げる。

- ①「利用者ニーズの共有」：利用者のニーズを把握し「デイケアでは何に取り組むのか」ということを利用者や担当職員そして関わる職員同士が共有し、互いにフィードバックし合うこと。また、目的に合わせたプログラムの幅を広げていくこと
- ②「デイケアを知ってもらう」：他部門に個々の利用者がデイケアで何を目的にどのような活動をしているのか、を報告するなど、入院中も含め積極的に他部門と情報共有をしていくこと
- ③「ロールモデル」：自主性や役割を持って担えるプログラムを作り、成功体験を次につなぐため利用者同士の交流を生かすこと
- ④「デイケアはリハビリの場であることの定着」：地域生活をするための技術を身に付ける場であり、デイケアがゴールではないことを利用者にも職員にも周知し、卒業への道筋を示していくこと

今後も利用者や、多職種の意見を聞きながらデイケアを生かしてもらい、成長していきたいと感じています。皆さんにもご協力をよろしくお願いいたします。



ウトナイ病院通信

第10回 働く夏休み

8月の法人全体が夏休みの間に、開かずの扉の向こうにあると思われる、レトロ感が漂う備品たちの整理をしなくてはと実行したのですが、量の多さに開始早々やる気をそがれてしまいました。OHPやカセットテープ、Windows98、ISDNなど今や使う事ができないもの達が沢山ありました。さすがに写真などは他の場所で大切に保管されているので手を止めるほど愛着があるものは無かったのですが、それでも手に取ると一瞬驚いてしまいます。

他にも紙で保存する必要が無いものを電子データ化する作業を隙間時間に入れるなど、今年の夏休み（休んではないけれど）はなかなか充実したものになりました。来年からは冷房の効いた新病院だと思うと酷暑とのお別れも寂しいものです。とは言っても、捨てるものをまとめて運ぶという重労働は、暑い時期にするものではなく、どんどん重くなる体でひたすら汗をかくのは修行みたいで、いい思い出にはなりませんでした。



5階からの眺め



激痛を訴える疾患の一つに帯状疱疹がある。これは水痘と同じウイルスが原因で発症する。このウイルスに初めて感染したときは水痘を発症するが、治療した後も脊髄の神経節に長く潜んでいる。そして免疫機能が低下した時、再び増殖して神経に沿って体表に現れ、発疹が帯状出現し水疱が生じてくる。顔面にできた場合は合併症を起こすことがあり、注意を要する。最近水痘ワクチンが定期接種化し水痘を発症する子供が減り、20～40歳代の世代の発生率が増えている。帯状疱疹は早期に治療する事が重要である。特に高齢者で広範囲に

発疹が生じた場合は、治療が遅れると「帯状疱疹神経痛」という厄介な疼痛が続く。患部に風が当たっただけで、痛みを訴えたりする。

最近2種類のワクチンが開発され50歳以上が対象で、かなり予防することができるようになった。1つは生ワクチンで発症予防効果は50～60%で、1回の接種で済む。他方は不活化ワクチンで、2回の接種が必要だが、90%以上に効果がある。一度帯状疱疹を発症すると、ワクチン以上の免疫が得られ、10年ほどは予防効果があると言われている。TVのコマーシャルに惑わされることなく、よく主治医と相談し決めた方が良いと思う。

(M.M)



精神科医 田中 尚朗

第6回 鉄道博物館

みなさんこんにちは。この連載では、これまで私の住んでいるボストン近辺の話題を中心にしてきましたが、今回は700キロほど離れたメリーランド州ボルティモアにある鉄道博物館を紹介したいと思います。

ボルティモアといえば、藤浪投手が活躍中のオリオールズとか、ジョンズ・ホプキンス大学が思い浮かぶかもしれませんが、実は「全米で最も危険な都市」の一つとしても有名です。

かつてこの街には、ボルティモア・アンド・オハイオ鉄道という最大手の鉄道会社の拠点がありました。博物館はその駅の跡地を利用しています。メインとなるのは、たくさんの車両展示がある巨大なパビリオンです。もとは小樽の手宮にあるような、転車台のある扇形庫だったものです。さらに屋外にもたくさん車両が展示されています。テーマとしては、米国の鉄道の全歴史を紹介するというよりも、鉄道もっとも栄えた時代＝19世紀半ばにフォーカスしている感じです。なので展示機関車はSLです。特に印象に残るのが郵便車で、職員が常駐しており、積み込まれてくる郵便を車内で仕分けして、次の駅で降ろす郵便物を決めるなどという業務が行われていました。

ここで機関車や客車を目の当たりにしてみると、その大きさには圧倒されます。米国でも鉄道は開拓に貢献したと言われますが、北海道の殖民軌道などとは軌道幅も含めて規模が違います。南北戦争(米国では「civil war」といいます)でも両軍共に兵員や物資の輸送に鉄道が大活躍しました。ボルティモアはワシントンをはさんで相手側の首都ヴァージニア州リッチモンドにもつながる場所であり、「戦争と鉄道」をテーマにした展示も多いです。もっとも、ここの車両展示はすべて静態保存であり、京都の梅小路博物館などを見てきた人には少々物足りないかもしれませんね。むしろ米国では、現行のすべての鉄道は動態保存であり、鑑賞の対象ということなのかもしれません。



活動報告

植苗病院リハビリテーション部スタッフが感染対策で病棟に行けない時間を利用して、社会資源マップを作成しました。目で見えるようにすることで、「自宅の近くで…」、「交通の便がいい場所の方が…」など様々な要望に応えられると思います！

また、実際に作ってみて、西側に作業所が多いのだと感じました。これから、変化のある掲示物にしていきたいので、入院患者さんと見学に行った時は感想など書き足していこうと思います！！患者さんに分かりやすく伝えられる資料になったので新病院に移転してからのお楽しみに♪



お知らせ

◆ 外来休診のお知らせ ◆

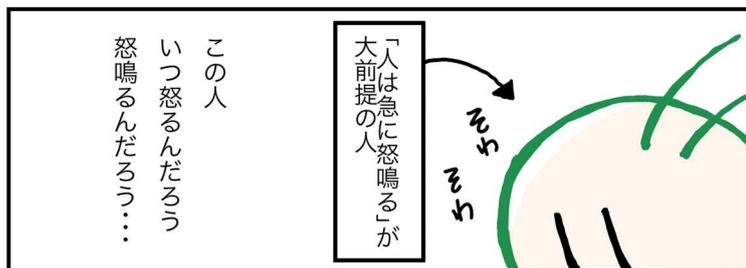
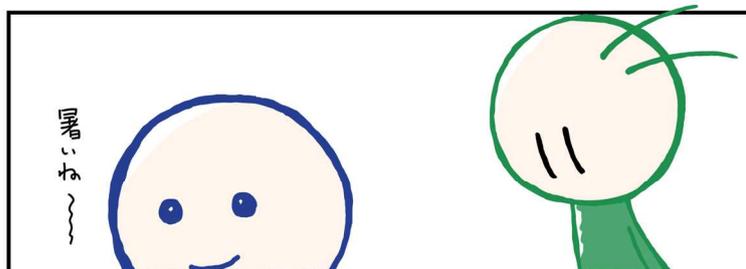
社会医療法人こぶし（ウトナイ病院・柳町診療所）では2023年12月28日（木）～2024年1月3日（水）の間、外来診療が休診となります。ご利用されています皆様にはご不便をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

	12/27 水曜日	12/28 木曜日	12/29 金曜日	12/30 土曜日	12/31 日曜日	1/1 月曜日	1/2 火曜日	1/3 水曜日	1/4 木曜日
外 来	通常 診療	休 診						通常 診療	



待ち構える人

まりも



病む人と出会い
病む人を支え
病む人に学ぶ

発行
社会医療法人こぶし広報委員会
苫小牧市字植苗52-2
TEL:0144-58-2314
<http://www.uenae-hp.or.jp/>



< 後記 >

今年の北海道の夏もとても暑い日が続きました。今年はいつよりも多くスイカを食べたように思います。秋にかけて少しは過ごしやすくなってくれるといいのですが…。写真は8月某日の実家の気温を写真に撮ってみました。(Y.T)